

アジャスト

日本システム技術と業務提携

「ビッグデータ統計情報サービス」開始

保険会社向けの医療情報の提供や業務支援ソフトウェアの開発・運用を行う㈱アジャスト(東京都渋谷区、横溝宏昌社長)は、日本システム技術(東証一部)と業務提携して、保険会社向けの「ビッグデータ統計情報サービス」を開始した。日本システム技術が保有している全国約1000万人のレセプトデータのうち、利用許諾を得た上で個人を特定できないよう、匿名化されたデータの一部からアジャストが統計を出して(検査結果を基に罹患へりかん)しやすい病気を抽出したり、合併症の発症などを、過去にさかのぼって把握したりする)「データ分析サービス」「データカタログサービス」として提供する。

「ビッグデータ統計情報サービス」では、健康保険加入者の治療情報が掲載されたレセプトデータと、加入者情報でひも付けされた健康診断の検査結果情報があり、同一患者の健康情報と治療情報から発症傾向を探る。職種による特徴などを活用すること、発病の発生傾向や診療傾向を把握して、企業向け「団体保険」の営業活動などに用いることもできる。具体的には、「データ分析サービス」は、複雑な条件を設定した上で分析するサービスで、専門医や統計学等の専門家から指導や監修を受けながら、約款情報にレセプトデータの傷病名や治療内容をひも付けて、給付(支払)条件も考慮してデータを分析することが可能。例えば、「長期入院」に対する保険商品があった場合、約款上で定義されている「長期」の判断条件を整理し、イレギュラーパターンを割り出すことで、最適な判断条件で設計することができ。2017年秋にリリースした同サービスは、すでに保険会社1社が導入済みで複数社が導入を検討しているという。

日本システム技術は、全国200以上の保険者(健康保険組合、国保、共済組合)のレセプトデータの点検や分析を行っており、取り扱うレセプト枚数は年間約1億枚に達している。アジャストの開発部門では、「当社では、長年保険金の査定業務支援サービスで培ってきたノウハウがあり、レセプトデータに、さらに補助的なデータを加えて分析できる」としている。今後、「本サービスの認知度を高めて保険会社業務の支援を一層拡大していく」方針だ。



「ビッグデータ集計画面」